

第3章 中世の日本と世界

学習を始めよう ～中世の暮らしと社会～

教科書 p. 60～61

Q1 ^{いっぺん}一遍は何をしているでしょうか。

●一遍の向かいにいる人や、周りの人々の反応にも注目して、一遍が何をしているか想像してみよう。

刀を持った人に追いかけられ、切られそうになっている。

怒って刀を抜こうとしている男に話をしている。

など

(実際は、妻の出家に怒って一遍を追いかけてきた武士の正体を、言い当てている場面。)

Q2 ^{いち}市では何が売られているでしょうか。また、絵の中で教科書 p. 61 の①～⑤の職人^{さか}と関わりの深いものを探してみましょう。

●「^{ふくおか}福岡の^{いち}市」で売られているものを、書き出してみよう。
どのように使われたのかも想像してみよう。

^{たかあしだ}高足駄^{げた}(^{さか}下駄) …絵では、はだしの人が多い。普段は使わないが、雨の日など足が汚れるときに使ったと考えられる。

布^{たんもの}(^{たんもの}反物) …大きな布を買って、服やかぶり物などを作っていたと考えられる。

俵 …米、豆、麦などが入っていると考えられる。

魚 …食べていたと考えられる。

鳥 …にわとりではない。食べていたのだろうか。

お面 …お祭りで使ったと考えられる。

大きなつぼ(かめ) …酒、しょうゆなどが入っていると考えられる。

など

●市で売られているものは、どうやって運ばれてきたのだろうか。
絵の中から探したり、自分で予想したりしてみよう。

左下に、船で箱を運んでいる人がいる。

右上に、天びん棒で魚を運んでいる人がいる。

各地で作られたものは、徒歩や船で市へ運ばれたのだろうか。

など

- 「中世^{ちゅうせい}の職人たち」①～⑤の人々は、何をしているのだろう。
同じものが描かれている部分を、「福岡の市」から探してみよう。

① 米を売っている（左下の女性は、豆を売っている）。 （「福岡の市」中央上の俵）
② 魚と貝を売っている。 （「福岡の市」右上の魚）
③ 機 ^{はた} を織っている。 （「福岡の市」中央上の反物）
④ 高足駄 ^{たかあしだ} （下駄 ^{げた} ）を作っている。 （「福岡の市」中央左の高足駄 ^{たかあしだ} ）
⑤ 材木を運んでいる。 （「福岡の市」左下の材木）

など

Q3 中世^{ちゅうせい}にはどのような人々が活躍^{かつやく}したのか予想してみましょう。

- この時代の市では、どのような職業の人々が登場しただろうか。
人々の服装や持ち物、周りの様子から、どのような仕事が必要だったか考えてみよう。

米や豆、麦、酒、魚など、食べ物を売る商人。 布や服、下駄 ^{げた} 、ぼうしや笠、刀を作ったり直したりする職人。 お面や楽器（琵琶 ^{びわ} ）を作る職人。楽器（琵琶 ^{びわ} ）を演奏する人。 作られたものを運ぶ人。市などの建物や、船を作る職人。
--

など

→中世の人々の暮らしについては教科書 p. 68～69 や p. 82～83 で、
一遍^{いっぺん}については教科書 p. 70～71 で、くわしく学習するよ。